

議事概要

会議の名称	平成30年度第3回三田市子ども審議会
開催の日時	平成31年3月20日（水）10時～12時
開催の場所	ウッディタウン市民センター 大集会室
出席した委員の氏名	名須川知子会長、中西利恵副会長、永井和浩委員、中島啓子委員、上原千晶委員、平岡浩二委員、諏訪雅宣委員、横山博人委員、森脇明美委員、鳥山義文委員
出席した職員の職及び氏名	〈事務局〉 岡崎正文学校教育部長、奥毅吾こども室長、外岡明文学校教育部次長、江田貴子こども政策課長、横溝裕香子健やか育成課長、古井善喜学校教育課長、久後紀子学校教育課主幹、井上尚博こども政策課副課長、初井清陽こども支援課係長、山岡久哲こども政策課係長
傍聴人の人数	0名
議題	(1) 子ども・子育て支援事業に関するニーズ調査結果の概要について (2) 小規模保育事業者の認可及び利用定員について
会議の概要	審議事項について、委員会の意見あり（議事概要参照）
公開・非公開の区分	公開
使用した資料	【資料1】子ども・子育て支援事業に関するニーズ調査結果の概要について 【資料2】ニーズ調査報告書(案) 【資料3】小規模保育事業者の認可及び利用定員について
連絡先	子ども・未来部 子ども未来室 子ども政策課 電話 (079) 559-5079

会議経過

1. 開会

2. 議題

(1) 第2期計画策定にかかるアンケート調査について

(1) について、事務局説明

会 長：概要として気になるところを説明いただきました。今の説明についてご意見をお願いします。有効回収率は高かったと思います。

会 長：課題だと思うのが「日頃子どもをみてもらえる人」や「子育てに関する情報入手先」などを見ると、地域との関わりが前より減っていることがうかがえます。交流活動への参加が減っているとか、気軽に相談できる人がいない、チャッピーサポートセンターを知っている人が少ないなど、子育て情報のニーズについてはホームページやスマホアプリは今後の課題になります。数字上のことを言いましたが、実感としていかがでしょうか。行事なども周知はされているが参加しにくいでしょうか。

委 員：私は地域の活動の役をいろいろしています。下の子が小学6年生で、小学校区のイベントなどには積極的に参加しています。

委 員：武庫小学校区に居住していますが、ニュータウンの中では早い時期から入居が始まっており、高齢化が進んでいます。一方で、武庫小学校区ではマンションが新たに建設されており、高齢化した一戸建てと入れ替わりのあるマンション住民とで、なかなか小学校の地域的にいろんな活動をすることが難しいということを役員の方から聞いています。小学生、就学前の子どものいる母親も働いている人が多くなっており、子どもも忙しく、放課後や土日は習い事が多くなっている中で、地域でも高齢者が音頭を取って交流活動を持とうと努力してくださっている人がいて、情報は回ってくるのですが、なかなか参加する機会をつくっていくことが難しいというのが現状かと思っています。

会 長：生活の忙しさもあるということですね。ほかにいかがでしょうか。

委 員：54ページの間41に地域の子どもたちとの交流や活動とありますが、この質問で回答者がイメージするのは子ども会でしょうか。

事務局：子ども会もそうですし、夏祭りや学校行事などで地域で集まったりということもあり、限らないと思います。

委員：他市の調査でも子ども会は毎年少なくなっており、三田市も同じような状況だと思われます。子ども会を運営している人たちが、会員も減って困っている状況があります。存続するかどうか考えなければならない状況なのかどうか、委員を引き受けるのが嫌な保護者もいるでしょうし、地域性もあって難しいと思います。活発なのがいいのかということもあり、新興住宅地ではどうしていくのが良いかということが課題だと思います。もう1点、17ページ間14で教育・保育事業の利用したい場所と利用している場所とにずれがあるということは、実際には三田・三輪地区やフラワータウンは子育て家庭が増えているということでしょうか。

事務局：三田地区などで子育て世帯が増えている状況はあると思います。

会長：地域コミュニティをつくっていく上で、子育てと地域は大事なことです。地域の特性を生かしながらコミュニティをつくっていくことが子育てにもかかわってくると思いますので、実感をお聞きしたいと思います。いかがでしょうか。

委員：ほかの質問になるのですが、15ページの間12-5について、3歳から利用したいという人が多いということですが、この結果について、0～2歳は入れられないからということなのかどうでしょうか。

事務局：今ご指摘のように、0～2歳の方が施設を利用する場合には保育の必要性がある、保護者が仕事をしているといった条件があります。3歳以降は保育の必要性がある人以外、幼稚園で教育を受けたいという人が増えてくるので、そのことが3歳からということが多くなっているのではないかと思います。

委員：それを踏まえて、3歳になったらほぼ預けられるような受け入れ態勢は確保できているということでしょうか。

事務局：現在のところ市内の教育保育施設において4、5歳児は90%後半の受け入れができており、小学校への接続となっています。今後考えなければならないこととして、無償化が10月から始まることになり、次年度の受け入れとして、3歳児と4、5歳児の就園率は10%以上の差があり、3歳児の受け入れ確保を今後検討しなければならないと考えています。

会 長：保育時間についても問題になると思います。希望として短時間から長時間にという人が増えて待機児童が増えてくるということも当然あると思います。全国的には4歳以上はほとんどがいずれかの施設に通っており、3歳については三田市においても今後考えなければならない問題ということになっています。話を戻しますが、地域コミュニティについてほかにいかがでしょうか。

委 員：子ども会はありますが、母親がみな忙しくて、日程を合わせるのが大変だと聞きます。今度遊びに行く行事がありますが、皆さん協力してくださって、ほぼ100%の出席と聞いています。そういう事業が年に2回ほどあります。他の子ども会と合同で夏祭りなどがあるくらいですが、小学生くらいの子が放課後に交流できたりする場所が少なくなっています。放課後に遊ぶところがなくて家をあちこち行ったりしていますが、児童館のようなものがあるといいと思います。人数が少ない地区なので難しいかとは思いますが。

会 長：少ないからこそ交流も大事でしょうし、大事なご指摘だと思います。

委 員：子どもの少ない地区については、この先どうなるのかなと思います。

会 長：地域と子どもに焦点を当てたのはそういうところで、三田市は広いので人口の多いところは何かあります、少ないところの交流は大事で、地域の活性化にもつながります。また防災、虐待事案や不審者などにおいても顔見知りかどうかが重要です。子どもを巡って大人が知り合いになるのは大切なことだと思います。そういった濃淡が数字にも表れているのではないかと思います。ある自治体などは子どもがいなくて小学校がなくなるところが出ていますが、そうすると地域もばらばらになってしまいます。人口はどの自治体も偏っていますが、そこでどう地域として活性化するかは今後の課題になると思います。ご意見いかがでしょうか。

委 員：うちも小野小学校区ということで、4月からは人数が減っているのですが、地域の中では高齢者から子育て世代、子どもの交流をどう図るかの努力はいろいろとしてもらっています。学校行事に必ずふれあい活動推進協議会から声をかけて、高齢者に音楽会に来てもらったり、地域の祭りに招待をして来てもらったり、登下校時間に合わせて犬の散歩やウォーキングを通学路でもらったり、登下校に時間のかかる地域ですが、歩いている子どもは実際に触れ合えていると思います。遠いので親が送迎する家があり、仕方ないのですが、なかなか声掛けやあいさつもできなくなっています。子ども会などについても学校まで歩いている子どもの家庭は顔見知りで行きやすく、行事を知ることも多いと聞きます。会長からも話があったように、人数が少ないということが大きな問題で、負の連鎖になっています。人が集まることを具体的にしてもらわなければ、子ども

が大きくなったらどんどん出て行って増えていく見込みが全然ない、その中で必要な教育や子育てをしていくのは本当に難しい、それがわかっているからますます人が来ないということになります。自分の子どものことで一生懸命で、10年後20年後この村に人がいるのかということが心配で、心配だけれど具体的に何もできない、そこは市が本気で農村部を守ろうとしてくれるなら、何かできないかと思います。人が集まるところが便利になるのは簡単ですが、そうではない地域が多いなかで、どのようなことを具体的に考えてくれているのか。農村部は働きづらいということがあるから帰ってこない、それがわかっているから親も子育てしやすいところで育てろということになっていると思うので、農村部は本当に心配です。何かできないもののでしょうか。公立高校をニュータウンから村に移すとか。

委員：今の子どもは1学年1クラスになると、クラブ活動すら選択の余地がなく、野球もサッカーもできません。かつては中学校でそれぞれのクラブの大会があったのに、いまは9校揃うことがなくなっています。同じ三田市に住んでいるのに地域の違いでサービスが変わっていいのかというのが本音です。農村部にいる子どもは野球やサッカーをしようと思えばクラブチームに入るしかありません。クラブが少なくとも6～8つはできるような校区で考えられないだろうかと思います。保護者も学校や幼稚園が最初のコミュニティになると思います。人数の多いところは多さゆえに関心の少ない人が増えてきます。少ないところはみんなでやらなければならないので、ある程度関心があるのですが、みんなでやってもできないような数になってくると、市のサービスに頼らざるを得なくなっていくと思います。アンケート19ページで土曜日に定期的に預けたい人が20%くらいいますし、36ページの放課後児童クラブも土曜日に4分の1の利用希望があります。こういう人が預けられる環境を整えていく必要があると思います。いきなり校区を変えるというのは難しいと思うのですが、地域の学校をもう少しうまく使えないかということはあると思います。

会長：アンケートの結果からいろいろご意見をいただきました。やはり子どもが中心になるとコミュニティができてくるところがありますので、子ども審議会を超える話題かもしれませんが、総合的に考えるべき話だと思います。

委員：地域コミュニティの話の続きですが、小さくなる、喪失していく部分が出てくるのは必然であると思っています。アンケートで塾に居場所を置いている、学校に居場所を置いている、アンケートにはないですが市を超えた部分で、塾がコミュニティ活動をやるのか、働く時間で担い手がないなら企業がやっていくというのも一つの考え方かと思えます。そういうつながりで、小さくなっていくコミュニティを維持することもできないかと思っています。

会 長：子ども審議会ではそういう意見が出たということをも市に伝えていただければと、その視点で次回の計画もできればと思います。ほかのことでも結構ですが何かありますか。

委 員：今かかわっている地域子育て支援センターでは情報発信など努力しているつもりではありますが、地域に浸透していくのは難しいと感じています。ニュータウンでは住宅も建ち人数も増えていて、子育て家族もすごく多いので、そこがどうしても中心になってしまうというのが現状です。もっと地域に出て行って、公民館や小学校や幼稚園の部屋を借りるなどして、子どものための活動ができないものかと常々考えています。ただ、遠いからとか車がないからとか、遠い場合は本当に難しいですが、わざわざ行かなくてもいいですという人もいます。できるだけ多くの人が参加できるよう工夫を図っていきたいと考えています。地域のことですが、私はニュータウンに住んでいますが、私たちが子どもを育てている頃は、子どもたちは周囲の友達の家を回って遊んでいた状況でしたが、今は仕事をしている人が多く、誰かの家に遊びに行く環境ではなく、個々の家庭がどこかに遊びに行くという形で、家同士のつながりが薄くなっていると思います。私も自治会の役をしていますが、一緒にやりたいと思っても高齢化で、動いているのは70歳代以上の高齢者だけの地域で、そこにポツンと2、3軒の子育て家庭が入ってきても、どうかかわっていったらいいかが問題になっており、自治会でもそういう話が出ています。どこかからでも切り口を見つけて、世代を超えて交流していく場を作りましょうということで、地域では夏祭りなどいろんなことをしていると思うので、できるだけそういうところに呼び込んで子ども同士のかかわりや親同士のふれあいをつくっていくのが、自治会の役割でもあると思います。かつては子どもの組織もありましたが、自治会に入る家庭が少なくなって、脱退する家庭が多く運営も難しくなっている状況で、地域の行事をしていくにも難しい面がたくさん出ているという課題はひしひしと感じています。

委 員：私はウッディタウンですが、引っ越してきて24、5年です。引っ越してきたころは小学生が多くにぎやかでしたが、今は同じように我々世代が高齢化して年寄りが多く、公園があっても子どもの声が聞こえないです。夕方散歩していて下校する子どもをみると、声掛けをしたいとも思いますが、不審者情報ではないですが、お互いが顔見知りでないという部分があり、我々の世代からすると子どもに接する機会やきっかけを手探りしている状況も周りを見ているとあると思います。我々と子どもとのコミュニケーションはそういう部分があると思いますが、子育て世代、私の娘の友人などを見ると、いったん三田から出て子どもが生まれたら帰ってきている人が多いです。核家族として大阪などは育てにくい状況があるのだと思います。そして帰ってきた子どもが小学生になるときが一つの選択になると思います。将来を考えて、高校や大学を考えて都会に戻るかどうか、そこでずっと三田に住んでもらえる施策を考えていかなければ先細りするのかなど。

ゆりのき台でも5丁目6丁目はどんだん家も建って子どもは多いです。けれど今のままだったら2、30年したら同じような状況になるかと思えますので、そこをうまくつなげる施策も必要だと思います。そう考えると、小さな子どもを育てる環境の受け皿というか、放課後児童クラブの運営にしても土日のニーズが高い、しかし運営しようとする市としてはコストがかかります。しかし目先のコストはかかっても、長期的には必要な部分ではないかと思えます。先ほどの校区の編成替えもそうでしょうが、一時点だけをとらえるのではなく、広く長く三田をとらえるのが必要ではないかと思いました。

会 長：いろいろとご意見いただけて良かったと思います。子育て支援拠点になるところが市内4つということですが、規模からするともう少しあってもよいと思います。加東市でも4つあります。そうすると育てやすいということで外から人が入ってきます。そこで母親同士が知り合いになり、そのまま小学校中学校と上がって地域に根差していくというところがあるので、この審議会でも地域のこと、全体のこと、児童館の数など、考えていくきっかけになればと思います。

委 員：43ページの間30で日常的に悩んでいることや気になることがあがっています。今後クロス集計などされるでしょうが、概要報告の中で数が少ないところにも着目していただいて、それはよかったと思います。どうしても増えたところ、多いところに気がつくでしょうが、例えば小学生なら子どもの友達付き合いや安全な環境については小学生では2割を超えていますし、身近に子どもの遊び相手がないということも就学前では12.3%あります。今ご発言いただいたことについて、数として上位ではありませんが、潜在的にあり続ける、気になる点だと思いますので、そこを多数決だけではなく、拾えるようにしていけると良いと思います。

会 長：ありがとうございました。私は問34の児童虐待だと思われる行為を見聞きするけれど連絡しないというところも気になりました。すぐ市役所に行く場合もあるし、区長や保健所などに相談するなど方法がありますが、やはりつながりができないことです。そういうことで地域について中心的に話しました。それでは次の議題に移ります。

(2)小規模保育事業者の認可及び利用定員について

(2) について、事務局説明

会 長：審議会の意見を聞くということですのでご意見があればお願いします。

委 員：すでに小規模保育事業所ができていますが、新たにできるということで駐車場の整備な

ども言われましたが、一番気になるのは屋外遊技場です。1歳2歳になれば動き回って、外への散歩も必要になると思うのですが、環境から考えると、外に出ていけるのはどのあたりを考えているのかということと、連携施設として2施設がありますが、外での遊び場の環境として園庭を使わせていただくようなことが考えられているのかも気になります。子どもの育ちについては、外で自然のなかでの遊びが必要になるとは思いますがそれが気になります。もしわかるならお尋ねしたいと思います。

事務局：三田市の小規模保育事業所は既に5施設開園しております。今回は6施設目になります。本施設については、はじかみ池公園まで大人が200歩程度で移動できます。またそこに2歳児だけではなく0、1歳児もカートで移動することになるとは思いますが、歩道も非常に広く歩車分離されており、途中で南ウッディタウン交番もあります。ほかの施設についても南ウッディタウン駅周辺は同様ですし、三田駅周辺については市役所1階の広場や6階にも芝生の広場もあり自由にご利用いただけます。三田市役所周辺の小規模保育事業所は施設周辺の公園の他に市役所へ遊びに来ていただいています。委員がご懸念の屋外遊戯施設については非常に広いところを設定していますのでご安心いただけたと考えています。連携施設からの協力としてイベント、七夕や園庭に遊びに来るというものを受けることが可能ですので、3歳児以降にそちらの連携施設に行くのだということが子どもにわかるように支援を得られる形になっています。

委員：公園などに車に乗せて公園で散歩されている様子を聞きますが、公園があまり整備されていないということも聞いています。草が生い茂りなかなか使えないということも聞いていますので、できればそういう公園もフルに活用できて遠慮なく遊べる安全な遊び場として確保していただければと思います。

会長：芝生の広場というのは市役所前のものでしょうか。チェーンがなく子どもが遊ぶには危ないようなことを聞きました。すぐに道路があるので、遊ぶときに外に出ないような工夫は市の方で考えてもらえるでしょうか。使いたい園はたくさんあるようです。

事務局：実際の利用にあたっては先生方にもたくさん来ていただいています。1、2歳児ですので3～5歳児以上ほど活発に走り回ることありません。小規模保育事業所は子どもの数も多くはなく、先生が4～5人で安全面を配慮した遊びを行ってもらっております。6階については周りがガラス張りで景色もきれいにみえます。また、小規模保育事業所の子どもたちに遊んでもらうには十分な広さがあります。更に、多目的トイレもあり、自由に使っていただけます。市役所周辺の小規模保育事業所、そして南ウッディタウンにある小規模保育事業所も市役所まで遊びに来ていただいております。実際に安全に遊んでいただいております。確かに1階については広いですが、小さな子どもは十分安全

に遊べるかと思います。

会 長：安全を確保した方がいいですし、子どもは車の方に走っていきがちですので、先生だけだと限界があると思います。何か工夫があるとよいと思っています。またお考えいただければありがたいと思います。コスモチャイルド保育園については、8月に審査してここに決まったということですが、この件についてご意見はよいでしょうか。利用定員が3号認定で19人ということで、0歳に1人、1～2歳に3人の保育士ということでしたが、保育士さんは集まりましたでしょうか。

事務局：まもなく開園ですが、施設長については規定通り5年以上の経歴を持つ人を確保していただいています。保育士についても充足率が高く、ベテランも含めて多くの保育士を集めています。先日完成検査に行きましたが、利用定員19人の施設としては保育スペースを広く確保されておられました。ウッディタウンに開園することから、保育室については木の温かみを重視して什器なども木材でつくっておられ、設置者が地域に合った考え方を採用しており長く保育していこうという意思が感じられました。

会 長：ほかにないでしょうか。ではこの件については了承ということです。議題はここまでとなります。本日出た意見についてはまた事務局で整理し、市政に反映されるようご検討いただきたいと思います。その他意見はありますか。

委 員：これは子ども審議会というよりは事務局への要望に近い形です。市も予算があつてのことですし、小さい子どもがいる家庭と周りの企業などと協力して割引が効くなどそういう形で家計の助けになったりということがあったりとか、他の自治体で関東であった話かと思いますが、通学路がデコボコで危ないところを、地域住民の保護者に協力してもらってみんなで埋めてもらうなどすれば、市もお金を使わないでできることがたくさんあると思っています。私は三田の北部なので、北の方では東西に走る小さなコミュニティバスなどがあれば、コミュニティが広がるかなと思います。もう1点は、いまここに出ているのは利用者の内容が多いですが、働いている人の職場環境がどうなのかということが問題だと思っています。利用する人もそうですが、働いている人が幸せでないと長続きしないと思っています。以前の子ども審議会は、事業主や労働者代表も構成員でしたが、今は構成員ではなく、内容が伝わっていません。働く人が幸せになる面からも情報の発信をしていただきたいと思っています。

会 長：他にないでしょうか。ないようでしたら進行を事務局にお返しします。

事務局：最後まで熱心にご議論いただきありがとうございました。今年度は2期目の子ども・子

育て支援事業計画を策定していく必要がありますので、そういう部分について基本的なご意見をいただきたいと思います。審議会には関連する各担当部署から職員が出席していますが、それ以外の部分についてご意見いただいた分については他の担当部署にもつないでいきますし、回答もさせていただければと思います。会議の人数については、以前は二十数名という体制を取らせていただいていたのですが、人数を絞って議論を活発にするという意図があり、今回人数は少なくしたという経緯があります。本日はアンケートの結果報告をさせていただきました。じっくり見ていく中でいろんな意見や課題も見えてくると思いますので、意見シートに記入いただいて送付をいただければと思っています。1点ご報告ですが、4月から子ども・未来部という組織ができます。従来は健康福祉部の中のこども室という体制から、一つの部として格上げされ新しい体制で子どもの支援体制を整えていこうと計画しています。4月からの組織体制ですが、子ども・未来部の下に子ども未来室と子育て応援室、その下に5課が入るという体制に拡充されます。大きな特徴として幼児教育と保育の一体化ということがあり、教育委員会の幼稚園事務を、子ども未来部に再編し、幼保の連携を拡充していくのが1点です。また子育て相談・環境の充実として、健康増進課にあったチャッピーサポートセンターが子ども政策課に移管し、相談支援体制の拡充・強化、相談環境の拡充を図っていきます。この会議の事務局は引き続き子ども政策課で担当しますが、31年度については第2期の計画策定のため、やや過密なスケジュールで、6月くらいから月に1回で4回程度審議会を開催し、秋にはまとめ上げていきたいと考えていますので、よろしく願います。次に、学校再編について、現在教育委員会で進めている進捗を報告します。

事務局：先ほどの議論のなかにも学校再編の話があり、小規模化にともなう学校の課題の指摘もありましたのでご説明します。現在学校のあり方の基本方針をこの夏に策定し、それに基づいて再編計画を立てています。小規模化が進んでいる学校が出ている中で、望ましい学校規模を確保しながら教育活動を充実させていくということで進めています。小中学校の状況として、特に課題が大きい中学校の再編計画を昨年12月に策定し、対象となる4校を対象に説明などを行っています。2月10日から17日にかけて4中学校の住民・保護者の方に4会場で説明会を実施し、延べ417名の出席がありました。説明会でも多くの意見をいただいております。地域にとって必要だという意見、再編の対象校としてほかに案はなかったのかという意見もありました。十分に意見を聞いたとは考えていませんので、今後もより小規模な単位で繰り返しながら、地域協議会で議論いただける状況を作りたいと考えています。地域協議会では教育委員会の案はたたき台としてとらえていただき、是非を含めて協議をいただく予定としています。幼稚園については、11月1日から12月3日にかけてパブリックコメントを行い、案と大きく変更することなく、基本方針として1月に策定したところです。いただいたパブリックコメントのご意見を少しご紹介すると、12名から40件の意見があり、再編を含む方針案に賛成である、理由として

学び合う集団生活の観点から小規模化が進んでいる環境を良くしてほしいという意見、集団規模の大きさとして提案では15～30人を想定していますが、10～20人が良いのではないかという意見、少人数でも工夫すればよいなどという意見がありました。3歳児保育の実施も基本方針には含めていますが、できるだけ早く実施してほしいという意見をいただいています。預かり保育についても働く保護者が多いということで拡充を望むという意見、公立幼稚園の認定こども園化の方針については、国道より北に保育をする施設がないという状況で、ニーズがあることを念頭に置いて進めてほしいということ、適正配置については学び合う集団生活を踏まえてできるだけ中間地点においてほしいといった意見をいただいています。この度市では、組織改正を行うこととしており、来年度4月から新たな体制で公立幼稚園も含め適正なあり方の検討を行っていく予定です。現在の学校園のあり方の取組状況については以上です。

事務局：本日はありがとうございました。

3. 閉会